

座

六年

画数 10
筆順 座

オシ 座
クシ 座
オシ 座
クシ 座

成り立ち



↓ 座 ↓ 座 ↓ 座 ↓ 座

人が二人、向かい合って「すわって」いる形を表した「坐」と、家の形を表した「宀」とを組み合わせて作った字です。「家の中の「すわる」場所」を表した字です。例 着座、座席、座右、上座。

「人々が集まる所」という意味にも使います。例 座談 座興、満座。

「坐(すわる)」という意味にも使います。例 座禅(元は「坐禅」)。

また、「劇団」や「劇場」の意味にも使います。例 座長、歌舞伎座。

「坐が「すわる」の本字だが、常用漢字にないため座が「すわる」の意味に代用されるようになった。」

使い方

▽わたしのおじいちゃんは、「克己心」という言葉を座右の銘としています。自分に勝てなければ、何事もなしとげられない、とおじいちゃんは、常に言います。おじいちゃんは若い頃には意志が弱かったそうです。そういう自分の弱さに勝ちたいと思って、「克己心」を座右の銘としたのだそうです。

▽ぼくのおとうさんは座談の名人です。知り合いの人でも、初対面の人でも、一緒に居合わせた人と、たちまち楽しくうちとけて話すのです。話す内容も面白くて、話に引き込まれてしまいます。

熟語例

▽着座(座席に着くこと。席に座ること。)

▽座席(座る席)

▽座右(座席のかたわら。「座右の銘」といえば、いつも身近に置いて、いましめとする言葉のことです。)

▽上座(位が上の人が座る場所。「ジョウザ」とも読みます。例「下座」(ゲザ))

▽座談(座って気楽に話し合うこと。)

▽座興(その場の興(おもしろみ)をそえる戯れ)

濟

六年

画数 11
筆順 濟

オシ 濟
クシ 濟
オシ 濟
クシ 濟

成り立ち



↓ 濟 ↓ 濟 ↓ 濟 ↓ 濟

「りっぱにきちんと」ととのえる」という意味を表した「齊」と、川の意味を表した「氵」とを組み合わせて作った字です。

「川の水をあふれさせて洪水にしないように、」とのえる」ことを表した字です。「水を治める」ことを表した字です。

昔の政治では、「水を「齊える」こと、つまり「治水」が一番大事な仕事でした。それで「政治」ということばがあるのです。

人々を「救う」仕事なので、「救う」という意味に使われます。例 救済、済度、済民、経済。

また、「うまく「すます(すむ)」という意味にも使われます。例 完済、返済、弁済、未済。

使い方

▽「経済」という言葉は、もともと「経世済民」といって、世の中を治め民衆を救う、という意味の言葉から出たものです。ですから、経済という言葉は、国を経営し、国民のくらしを助ける、という活動のことです。

▽ぼくは妹におこづかいを借りました。借りるといっても、妹のことだから返済の必要はないだろうと、たかをくくっていたら、今日、返してちょうだいと言われてしまいました。

熟語例

▽救済(救うこと。とくに、苦しみ悩んでいる人を救うことを言います。「難民救済活動」など)

▽済度(仏教で、迷い苦しんでいる人々を救い、正しい悟りの道に導くこと。)

▽済民(民衆を救うこと。)

▽経済(「経世済民」から来た言葉ですが、今では人間が生活する上で必要な、生産・売買・消費をひっくるめてさす言葉です。「経済的」といえば、費用や手間が、かからないことを言います。)

▽返済(借りを返すこと。)